

Title	オープンイノベーション1.0とオープンイノベーション2.0の間
Author(s)	樋口, 裕思
Citation	年次学術大会講演要旨集, 39: 496-496
Issue Date	2024-10-26
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/19525
Rights	本著作物は研究・イノベーション学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Research Policy and Innovation Management.
Description	一般講演要旨

オープンイノベーション1.0とオープンイノベーション2.0の間

○樋口 裕思（北陸先端科学技術大学院大学 産学官連携客員教授）

1. はじめに

社会課題の解決なしには組織の成長や豊かさが得られない時代となり、組織は利益の追求と社会善を同時に実現すべき立場にある。それに伴いオープンイノベーション活動も進化を遂げてきた。最新のリソースを外部から探索してきて自組織に取り込む活動として始まったオープンイノベーション活動（オープンイノベーション1.0）が、近年は社会課題解決を目的とした活動として捉えられるようになってきている（オープンイノベーション2.0）。オープンイノベーション1.0からオープンイノベーション2.0への進化は簡単に達成できるものではない。多くの組織がこの壁にぶち当たっている。ここでは、オープンイノベーション1.0からオープンイノベーション2.0を着実に進化するにあたり、踏むべきステップを提案する¹⁾。

2. 概要

オープンイノベーション1.0は、研究開発効率の向上や新規事業の創出などが目的で、相手組織と1:1の連携を築き、企業が主導となりWin-Winの関係構築を目指すものである。オープンイノベーション2.0は、社会的な共有課題の解決が目的で、複数の組織と1:多の連携を築き、市民やユーザーが主導となり共創（オーケストレーション）を目指すものである。時代の流れを反映して、オープンイノベーション1.0からオープンイノベーション2.0への移行が行われているが、社会課題という非常に困難な大きな課題の解決に一足飛びに移行することは難しい。そこで、オープンイノベーション1.0とオープンイノベーション2.0の間にステップを設けた。

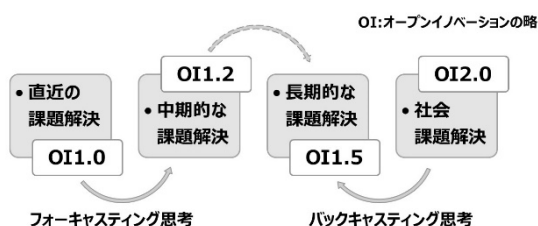


図1. オープンイノベーション1.0とオープンイノベーション2.0の間

中期的な課題は、現状からの延長（フォーキャスティング思考）で具体的に設定できるため、従来の手法であるオープンイノベーション1.0のスキームで実施することが可能である。いわゆるニーズとシーズのマッチング活動である。一方、長期的な課題は、中期課題の延長として捉える（フォーキャスティング思考）と具体性に乏しく課題が曖昧になる。一方、世界共通で課題が明確化されている社会課題を細分化する（バックキャスティング思考）ことで長期的な課題を設定すると、課題の精度が向上する。

最終的に図1のスキームがスムーズに進むための課題としては、中期的な課題から長期的な課題への移行となる。ここがうまくつながるようにデザインできるかどうか新たな課題となる。中期的な課題と長期的な課題の設定を逐一見直し、フォーキャスティングおよびバックキャスティング思考を繰り返し、うまくつなげていくよう心がけるしかない。

ここでは、一例として社会課題である「完全再生エネルギー社会」へのスキームを示す²⁾。完全再生エネルギー社会の実現がオープンイノベーション2.0であり、そのためには化石燃料社会から脱却することが必要である。そこで、手始めに現状の社会から化石燃料から生成する水素（グレー水素）を用いる社会への移行をオープンイノベーション1.2で目指す。一方、完全再生エネルギー社会への課題を細分化することで、再生可能エネルギーから生成する水素（グリーン水素）を使った社会が見えてくる。これを長期的な課題として設定し、その解決をオープンイノベーション1.5で目指す。あとはグレー水素をからグリーン水素への移行をいかにスムーズに行えるかが課題となる。ここにブルー水素（グレー生成時に発生する二酸化炭素を大気中に放出しないような処置を取った水素）が登場し、グレー水素からブルー水素を經由してグリーン水素を用いるスキームが完成する。

【参考文献】

- 1) 樋口裕思, イノベーションのカタチ, World Economic Review, Vol.66, No.2, pp.73-82, 2024
- 2) 田瀬和夫, SDGsパートナーズ, SDGs思考,インプレス, 2020